

ニュースレター

Rejoice

No.5

[特集] ICN 目線で考える、病院移転と環境清掃

1964年に開設された東邦大学医療センター大橋病院は、目黒区西南部医療圏の基幹病院として、地域の医療機関や行政機関と連携を深め、患者様に高度な医療を提供されています。地域住民の医療を担ってきた大橋病院は、2018年6月20日に新病院として生まれ変わりました。そこで今回は、同院で感染管理認定看護師（以下ICN）としてご活躍の松岡千賀子さんに環境清掃についてお話を伺いました。

東邦大学医療センター大橋病院



〒153-8515
東京都目黒区大橋 2-22-36
TEL. 03-3468-1251 (代表)
<https://www.ohashi.med.toho-u.ac.jp>

ミーティングやラウンドを通じた情報共有で、垣根を越えたコミュニケーション

— 貴院と清掃業務委託会社との連携について教えてください



東邦大学医療センター大橋病院
看護部 看護師長
感染管理認定看護師
松岡千賀子さん

松岡: 清掃業務委託会社であるリジョイスカンパニー（以下RJC）さんとは、日常的にとてもよいコミュニケーションがとれていると感じています。

具体的には、例えば毎朝、全師長が集まるミーティングにも参加していただいています。感染症対象患者さんのベッドの場所、退院予定の部屋、ベッドの移動などを、病棟スタッフと一緒に確認するのです。その他、RJCさんからの

定期清掃等の周知等もその場で行われます。情報の共有は、効率的な仕事には欠かせませんからね。

また、病棟の環境ラウンドにも参加していただいています。これは、医師、医療安全、看護部と事務などの多職種によるラウンドです。患者さんに快適で清潔な療養環境を提供するために、関係部門から必ず参加して、不具合などを見落とさないように、それぞれの視点で確認をします。



毎朝のミーティング風景



環境ラウンドの様子



大橋病院で行われた勉強会の様子。写真は、吐瀉物処理の集合研修。病院の中途採用者だけでなく、清掃委託会社のスタッフも参加して行われる

こうすることで、清掃や環境整備に対する意識があがり、一緒に環境をよくするという実践に繋がるようになりました。また、多職種でラウンドすることで、普段から意見交換や相談しやすい環境ができました。

— 部署だけでなく、職場も超えた情報の共有は素晴らしいですね。

松岡: こうした仕組みは、2013年のMRSAアウトブレイクから始めました。このことをきっかけに耐性菌への意識が高まり、医療スタッフだけでなく事務系や委託業者さんにも情報共有することの大切さを学んだ事例でした。

優れた教育体制や院内研修が育てる、優秀な清掃スタッフ

— 病院の移転は大変だったのではないのでしょうか。また、移転後の環境清掃についてはいかがでしょう？

松岡: そうですね。わずかな時間で、近いとはいえ、多くの事をやり遂げなければなりません。でも、新しい病院になり、400床超から広い敷地に319床を確保できたため、病棟や廊下のスペースにも余裕ができました。

日常清掃に関しては、特別なことは行っていません。床面のオフロケーションシステムによる清拭と、環境清拭ワイブによる高頻度接触表面の清拭清掃が主ですが、しっかりと決まりを守っていただいているので、常に清潔が保たれています。これは、RJCさんの教育体制にもよるところが大きいと思います。



RJCの新人教育の様子。新規採用者を対象に、現場に配属される前にRJCの本社で行われる

早川:RJCでは、これまで各現場責任者に一任していた新人研修を、入社時の基礎知識均一化を図り新規採用され現場配属される前に本社で行っています。ここでは、技術だけでなく、接遇や医療安全・感染対策についての基本的な知識を得てもらいます。病院の特性を知り、自分たちは何をすべきなのかをきちんと理解できる素地ができるのです。



(株) リジョイスカンパニー
ヘルスケア事業本部
早川冬悟

松岡:そうですね。さらに、院内開催の中途採用研修会もあり、医療安全と感染対策について学ぶ機会をつくっていますが、そこにも参加していただいています。既存のスタッフに対しても毎年、部門別研修を行っています。

柔軟な企画力で、コミュニケーションを向上させることは、ICNの最重要スキルのひとつ

松岡:コミュニケーションに関連しますが、病室の前やベッドのヘッドボードに、必要に応じてマグネット式のピクトグラムを貼付しています。これは、医療者や委託業者への注意喚起のために行っているものです。

接触感染対策が必要な場合にはマスクとグローブのものを貼付しています。やわらかい表現方法でもある



病室の前に貼られたマグネット式のピクトグラム(青いボードの右上)。写真は、マスクとグローブ&ガウンのピクトグラムで、接触感染対策が必要であることが示されている

ので、違和感なく受け入れられていますね。

ベッドサイドのピクトグラムには、水分制限や食事制限などのピクトグラムを貼付することで、エラーを防ぐ意味合いだけでなく、患者さんとのコミュニケーションツールにもなっています。手指衛生の質も上がりました。患者あたりの使用量が増え、環境清掃の質向上と併せて、現時点で感染症のアウトブレイクは発生していません。

— それはとてもよいことですね。

松岡:私たちは、日々の活動を常に見直ししながら、PDCA*を日常的にまわしています。そこには、現場でしか知り得ない情報もあり、そうしたことを受け止めるには、日々のコミュニケーションがととても大切になってきます。

ICNには、こうした企画力や交渉力、知識と決断など多くのスキルを求められます。なかでもコミュニケーションは最も重要なスキルのひとつです。それを実現するための仕組み作りやチームビルディングといったことが求められます。

そしてそこには、快適な環境作りを支えてくれる清掃業務委託会社のスタッフは必要不可欠だと思っています。清掃を安心して任せられることで、私たちは、より患者さんに寄り添ったケアに集中できるのです。

*PDCA:PDCAサイクルとも呼ばれ、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)を繰り返すことで、生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法のこと。

清掃委託会社は必要不可欠。 互いの仕事領域のプロとして、 これからも改善を続けていく

松岡:移転を経て病床数を抑えたこと、使用機材を絞り込んだこと、旧病院で運用していた仕組みを強化したことなどによって、清掃委託会社との距離がより縮まり、コミュニケーションもより密になり、清掃委託会社がチームに必要な一員であるということを再認識することができたなど、今回の移転は、とてもいい機会になりました。

これからも、ともに改善を続けていくパートナーと

して、お互いの仕事領域のプロとして、ともに理解して尊重し合って、さらによりよいものに高めて行ければいいですね。



シンプルで機能的な清掃カート

— ありがとうございました。

[リジョイスカンパニー通信]

- リスク管理対策の取り組みについて -

メンテナンス事業部門
清掃事業部 中村満明

昨年度にリスク管理対策として、病院様からお預かりしている鍵の管理と共用部の定期清掃時の侵入(転倒)防止策を徹底して再確認致しました。

『鍵』の取扱いの心得 ※リジョイスカンパニー

鍵の紛失は、“信用の喪失”
失くされた鍵の安全を脅かし、万一の責任は計り知れない
弁償して済むものではない
命と等しく大切に・厳重に取扱いのこと

■ 鍵を紛失しないための5ヶ条 ■

1. 必ず授受簿に記入すること
2. 又貸しをしないこと (必要があれば授受簿を添付してから)
3. 伸びるキーチェーンで“肌身離さず”※フックは必ずすぐに身体に接触
4. いつも同じ1ヶ所に決めて携帯する
5. 鍵の取扱い時は、人と撞らない (両手から取ること、決して)

※鍵は必ずリジョイスカンパニーへ返すこと

鍵の紛失による重大トラブル防止として、各現場には鍵付きボックスを設置し

毎日の鍵保管チェック、各ス

タッフにキーチェーンを配布しズボン等に装着して鍵を固定し紛失を防止する様、徹底管理しております。

常時、患者様・病院職員・清掃員のすべてにおいてケガをしない・させない事を念頭に置き、業務を行っております。特に共用部における定期清掃時には作業中に誤って中に侵

入し、足を滑らせ転倒させない様につ立・進入禁止ロープを使用し、歩行者案内板及び自社製歩行者マットで歩行者を安全な場所に誘導しております。

今後も更なる改善を図って参ります。



編集後記 From Editor

病院移転後の旧病院に遺された数々のものについての一考

地域医療に貢献する大橋病院の移転に携われたことは、自身のキャリアの中でとても貴重な経験となりました。その経験の中で、大きく2つ重要だと感じたことがあります。

1つ目は、清掃スタッフの移転前実地研修です。自身、病院移転が初体験であり、段取りが上手くできませんでした。結果、移転前の研修は、直近で新病院の内覧をするに留まってしまったため、移転後のスタッフの混乱を招いてしまいました。可能であれば、移転前に時間をとり、移転後の配置場所にて実際に清掃することで移転後のイメージを持つことができ、混乱も最小限に抑えることができたと思います。

2つ目は、物品の仕分け・処分です。これは我々清掃に限らず、病院全体として感じた部分でもあると思います。移転後も旧病院へ行き、長い間物品の仕分けや後処理をされている方を多く見かけました。移転前に何が何を仕分けるとともに、廃棄する物品の処理を部署毎に十分過ぎる時間を確保し、対応する必要があると思います。

今後も築年数の経った医療機関を中心に、病院の新設・移転はあると思います。その中でこの貴重な経験を活かして行ければと思っています。

株式会社リジョイスカンパニー
ヘルスケア事業本部 早川冬悟

全ては、お客様へ快適な環境を届けるために。

for the Client for the Society for the Ourselves

リジョイスカンパニーが
医療機関の様々な業務をサポートします。